

「信じて行動する者となる」

～頑なな心を溶かしていただく～

「その後、イエスは十一弟子が食卓についているところに現れ、彼らの不信仰と、心のかたくななことをお責めになった。彼らは、よみがえられたイエスを見た人々の言うことを、信じなかったからである。」 マルコ福音書16章14節

15章では十字架という最高に暗い状況を見ました。本日の16章は暗闇から朝日が昇るように、主のご復活のすばらしさが描かれています。しかし、実際に人がよみがえるということは信じられない状況です。皆「主の死」という事実を知っていたので、死んだ人を見に行くことはなかなか難しい事だったと思います。男性たちは見に行く勇気がありませんでした。そこにはローマ兵たちが番をしていましたし、自分たちも捕まって殺されかねないことも良く知っていました。そのために女性たちが代表して墓に行くことになりました。墓の中に入ることも叶わない状況であるにも関わらず、彼らはイエス様のお体に塗るための香油を買い求めました。

死んだ人を見に行くことはとても辛いことです。先日この近くで事件が起こりました。マラソンをしていた男性が電話を借りて我が家の呼び鈴を押しました。この近くを走っていたら、道端で男性が首をつっていたというのです。慌てて妻が携帯電話を渡して、警察に連絡してもらいました。私も仕事から帰ったばかりだったので、服を着替えてその方と共に現場に向きました。もうすでにその方の顔はどす黒くなっていて、身動き一つしていませんでした。しばらくして、救急車と警察車両が続々と集まって来て、蘇生を試みたり、現場検証をしていました。第一発見者であるマラソンの男性は何人もの警察官に質問をされていました。最終的に生きていたのか、もう手遅れだったのか、分からないままその場を離れた私は、心がざわつき、苦しくなりました。壮年の男性の方でしたが、近くに車も乗り捨ててありましたので、すぐに身元は判明したと思いますが、主に祈りを捧げました。彼の魂をお守りくださいと。

自殺者は平成23年以降3万人からは減っていますが、まだまだ、厳しい現実が続いています。生きる希望、生きる力を必要とする時代です。イエス様の復活はすべての人への希望。そのメッセージをひとりでも多くの方々にお伝えしなければならぬと強く思いました。

頑なな、頑固な心を主はお責めになりました。それが信仰、信じることをさまたげてしまうからです。しかし主は、信じられない者が、「信じます！」と決断した時から共に歩んで下さり、一つ一つの経験を積み重ねることを通して、少しずつ信じられる者に変えてくださるのです。

恐れと不安に満ち溢れた者の心に希望の光を与えてくださる主イエス様を信じていきましょう！そして、私たちの存在を通して主が光を放ってくださるのです。主は私たちを用いたいと願っています。勇気を持って動き出しましょう！愛すること、励ますこと、平和を作り出すこと、赦すこと。愛の伝道を主とともに皆で力を合わせてなしていきたいと願う者です。